

食料問題とフードビジネスの将来—食べものの失われた価値を考える—

- 日 時：2016年7月9日（土）14:00～17:00
- 場 所：名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス 西館3階 306教室（名古屋市東区矢田南 4-102-9）
- 開催趣旨：

今年1月、全国に衝撃を与えた「廃棄食品の横流し」事件が東海地方で発生した。廃棄処分されたはずの冷凍カツが、その委託を受けた産業廃棄物業者から複数の食品卸売業者を通じて、名古屋市内の小売店や弁当惣菜店で販売されたのである。この事件は、食べられる可能性のある食品が、いとも簡単に捨てられてしまうサプライチェーンの機能不全、ひいては流通システムにおける「協力・信頼関係」の再検討を迫るものであった。

本シンポジウムでは、このような事例から学ぶべきことを整理し、さまざまなリスクに直面する現代の食品流通を食料問題の側面から議論する。そして、食品が持つ価値についての討論を通じ、新たなフードビジネスのあり方を模索する。

- 来場者全員にドギーバッグ（食べ残し持ち帰り容器）を差し上げます。

式順	内 容	時 間
1	開会挨拶（解題）— 堀川新吾（中部部会部会長，名城大学経営学部） 「我々はセキユを食って生きている」	14:00～14:15
2	趣旨説明・パネリスト紹介 — 中西大輔（岐阜経済大学経営学部）	14:15～14:20
3	報告1 — 山本謙治（株式会社グッドテーブルズ代表取締役） 「日本の食の価格は適正か？」	14:20～15:00
4	報告2 — 小林富雄（愛知工業大学経営学部） 「フードロスが示す日本の食の未来」	15:05～15:45
5	休憩（質問票受付）	15:45～15:55
6	論点整理とコメント — 仲川直毅（名城大学経済学部）	15:55～16:10
7	パネルディスカッション	16:10～16:45
8	閉会挨拶 — 竹内晴夫（日本流通学会副会長，愛知大学経済学部）	16:45～16:55

2016年

7月9日（土）

14:00～17:00

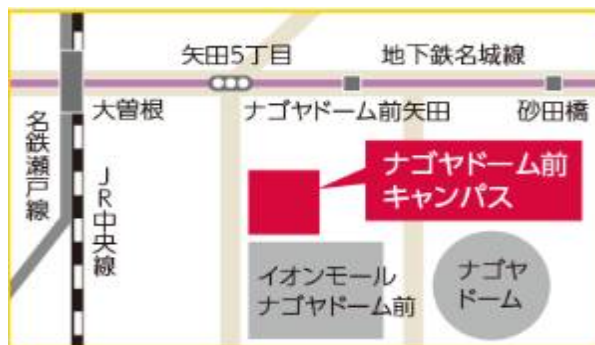
名城大学ナゴヤドーム前キャンパス西館3階306教室

地下鉄名城線

「ナゴヤドーム前矢田」駅から徒歩約3分

JR中央線・名鉄瀬戸線・地下鉄名城線

「大曽根」駅から徒歩約10分



- 事前申込をお願いしております（お申込されない場合、入場できないことがあります）。下記のアドレスまで、ご所属・ご氏名をご連絡ください。お申込いただいた後、数日中に受付完了のメールをご返信いたします。なお、ご不明な点などございました際にも、下記のアドレスまでお問い合わせください。
- 参加申込・お問い合わせ先：中西大輔（中部部会事務局）[E-mail：jsds.chubu@gmail.com]